

Scoop

2000年7月

ブルーバード・シルフィ

日産

発売1ヶ月前のフルヌード・ショット ブルーバード・シルフィが脱いだ！！

車両型式「G10」を掲げる、ブルーバード／パルサー統合車の車名が「シルフィ」に決定したことは8月号で報じたとおりだ。

確定イラスト掲載とともにアルメーラの国内版であることもスクープしたが、それを裏付けるナマ写真をついに入手した。



[↑ zoom](#)

これがブルーバード・シルフィの全貌だ。丸みを帯びたスタイリッシュなフォルムと扱いやすいサイズが印象深い。ボディカラーのボルドーレッドパールは新色で、今後登場する日産車にも採用されるだろう。

一見してわかるように、シルフィはサニーに比べて丸みを帯びたフォルムに仕上がっている。スリーサイズは4470mm×1695mm×1445mmでサニーよりも若干大きい、ホイールベースは同寸の2535mmだ。これは新世代MSプラットフォームが流用されていることを表す証拠でもある。

既報のとおり、QG18DE型1・8リットルとQG15DE型1・5リットルの2種類に加え、SR型後継となる新開発QR20DD型2リットルNEO-Diエンジンも搭載。



[↑ zoom](#)



ファインビジョンメーター

[↑ zoom](#)

ツートンカラーとメープル木目調パネルで上質感が演出されるインパネ。シフトノブ周りにはチタン調塗装フィニッシャーが装着されるが、ややミスマッチか？なお、内装色はカフェラテのみ。



[↑ zoom](#)

メッキガーニッシュがアイキャッチの役割を果たしているリアビュー。写真はQR20DD型2リットルNEO-Diを搭載する最上級グレード「20XJ Gパッケージ」だ。トランスミッションにはハイパーCVT-M6が採用される。

中でも、1・8リットル車は排ガス浄化システムを採用することで超-低排出ガス規制に適合しており、「都会の空気よりもキレイな排ガス」（←ホントか！？）が売りとなる。

シルフィのもうひとつのセールスポイントは上質感へのこだわりだ。クラスを超えた上級装備が数多く盛り込まれ、コンパクトクラスはもちろんのこと、現行ブルーバードをも凌駕する内容となっている。

具体的な装備アイテムでいうと、本革シートやファインビジョンメーター、電磁式トランクオープナー、内外装各部のメッキパーツなど。インテリアの色づかいにも配慮がなされ、上品な雰囲気演出されている。

なお、販売チャンネルはブルーバードを扱う日産ブルーステージで、8月30日のシルフィ発売後も現行ブルーバードが継続販売されるとの情報が届いている。

また、これを機にパルサーはブランドが消滅する公算が高い。シルフィは日産が放つ今年度初の新型車なだけに、誰もが注目するにちがいない。



[↑ zoom](#)

同クラスでは例を見ない本革シートも設定。



[↑ zoom](#)

ドアトリムにも木目調パネルが貼られ、玉縁のついたシートや細部におけるメッキパーツで高級感がもし出されている。リアアームレスト内蔵のカップホルダーは急速に普及しそうな装備だ。

▲ 戻る

S







ファインビジョンメーター





